中村欣一郎市長の

山椒は小粒でも…

Vol.30

男の願いをひとつ叶える…

「今年は走るぞー」と新年の目標をたてました。今のところ5回実行。というのも、2月2日(日)に相差町で開催される石神さんマラソンに出場するための慣らし運転のためです。

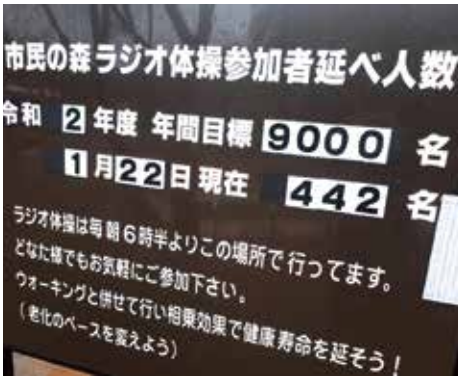
5回目の今年、大会の名称から「女子」の冠がとれ、ハーフをのぞく10kmと5kmと2.5kmの部には男性も出場できることになりました。まあマラソンとは言うものの、私が走るのは2.5kmのファミリーランなのですが…。「高校時代に唯一全校生徒の前で表彰されたのが校内駅伝での区間賞…」と昔は得意だった長距離走に思いを馳せつつ、それも遠い45年も前のこと。2.5kmとはいえ、なめてかからず、なまった身体をときほぐすように恐る恐る走り始めたところです。

まずはカタチから、ということで、少々値の張るウエアをそろえ、還暦の記念にと年末には赤いシューズも買い求めました。

早朝より走っているのは武道館をスタート地点に野球場や今工事中の市民体育館のある中央公園から、道路を渡り市民の森公園を周遊する約3kmのコースです。

早朝の薄明かりのなか行うラジオ体操

途中市民の森では、一年中ラジオ体操をする一団がいます。午前6時30分に合わせて、どこからともなく20～30人が集まってきます。タイミングを見計らって私も仲間に入れてもらい、一緒に体操します。場所は図書館裏手のあずまやあたり。「腕を前から上にあげて大きく背伸びの運動…」と、ラジオの音が聞こえてきます。始まりは真っ暗で、隣の人が誰かも分かりませんでしたが、第二体操が終わるころには明るくなっていました(写真は1月6日の様子です)。ちなみに今年1年の延べ参加者の目標は9000人とのことです。フラッと立ち寄れば誰でも参加できます。



さあ、2.5kmを無事走り終えたなら、次は5kmのレースに挑戦です！

人権文化の花を咲かせよう

Vol.189

市民課人権・市民交流係
☎㉕1126

世界が東京に集うとき

いよいよ来月には、聖火ランナーが福島を出発し、4月に鳥羽市を通過した後、開会式会場であるオリンピックスタジアムへと向かいます。

オリンピック・パラリンピックは、もともとスポーツを通した教育や平和のために誕生した祭典で、人権と深い関わりがあります。

国際オリンピック委員会(IOC)が定めたオリンピック憲章には「このオリンピック憲章に定める権利および自由は人種、肌の色、性別、性的指向、言語、宗教、政治的またはその他の意見、国あるいは社会のルーツ、財産、出自やその他の身分などの理由による、いかなる種類の差別も受けることなく、確実に享受されなければならない」と明記され、人権に配慮されたスポーツの祭典であることがうたわれています。

しかし、これまでオリンピック・パラリンピックはさまざまな人権問題と直面してきました。例えば、第1回アテネ大会においては、女性の参加は認められていませんでした。また、1964年東京大会では、体格のよい女性選手がメダルを獲得したことで、性別を疑う議論が起こり、女性だけに性確認検査を実施していた時代もあります。

人種差別問題では、アパルトヘイト(人種隔離政策)を行っていた南アフリカ共和国が、この政策を撤廃するまで、約30年の間、オリンピックから追放されていた歴史もあります。アメリカ国籍の黒人選手が、黒人差別に強く抗議するため、表彰台でアメリカ国旗から顔を背け、黒い手袋をはめた拳を高く突き上げたこともありました。

来る2020年東京大会では、3つの基本コンセプトのひとつに、「多様性と調和」を挙げています。世界中の人々がそれぞれの違いを肯定し、自然に受け入れ、互いに認め合い、共生社会を育む契機となるような大会となることを期待しましょう。